

台東区区民憲章策定区民会議
第1回班別会議 1班 議事概要

日時：平成17年9月29日(木)20時15分～21時

場所：台東区役所 1001会議室

<区民憲章の検討の進め方について>

- ・台東区をもっと深く理解した上で、その理解にもとづく言葉を憲章に表していくことが必要である。たとえば、台東区は大きな公園があるので緑が豊かであるという印象があるが、実際には区全体ではむしろ緑は少ない。
- ・区の歴史などもふまえて検討すべきである。
- ・一方で、過去の歴史よりも、今の台東区が好きだと思っている気持ちを大切にしたいという思いもある。では台東区のどこが好きかといえば、具体的に言うことはむずかしく、区が持っている総合的なイメージに対する気持ちだとしか言えない。ただ、このイメージがどんな要素で構成されているかは議論しながら抽出していくことはできるだろう。
- ・台東区らしさを議論する際、良い点だけでなく、問題点も抽出することが重要である。何をのびすかということだけでなく、何を改善すべきかも明らかになると思われる。
- ・基本構想と区民憲章の連携について、区民憲章は区民主体で策定するものであり、基本構想と全く異なる方向性のもものでは問題かもしれないが、全く同じである必要はなく、検討段階では特に整合性を取る必要はないと思われる。

<台東区らしさについて>

良い点

- ・江戸時代の史跡がたくさん残っており、歴史的資産が豊かな点は台東区らしさである。
- ・台東区には警察署が4つあり、交番が一つの町に二つ(田原町、菊屋橋)ある。私の住んでいる地区では110番通報が日に2回程度しかないと言われている。それぐらい、台東区全体でも犯罪が少なく、治安が良いといえる。ただし、殺人など重大犯罪は多い。
- ・知人に引っ越したにも関わらず住民票は台東区に残したままという人がいる。その理由は、祭りに住民として参加したいからである。このように、台東区の代表的イメージの一つとして「お祭り」をあげることができる。
- ・高齢化率が特別区で最も高いが、お年寄りが元気であることも台東区らしさである。

問題点

- ・下町らしい町並みがマンションに変わっていくなかで、下町の町並みが持っていた身近な小さな緑が失われつつある。
- ・マンションが建てられ、新しい人々が入ってくる。この人々に、町会など地域のコミュニティに入ってきてもらわないと、地域の文化が継承されにくくなる懸念がある。あたらしい人々に地域にとけ込んでもらうために、区民憲章もこうした人々の意見を取り入

れていくべきである。

- ・ただし、軒先の緑がたくさん残っている地域もあり、地域によって状況は異なる。
 - ・問題点として緑が少ない、また、減ってきているという点をあげることができる。緑が台東区らしさだということではないが、正岡子規の歌に「すずめより、うぐいす多き根岸かな」とある通り、かつて台東区が緑豊かであったことは確かで、それが失われてきたということは問題点として認識しておく必要がある。
 - ・吉原という地名は、吉原大門、吉原電話局、吉原神社など限られたところにしか残っていない。自分たちに都合の良い歴史だけ残そうとしているが、こうした姿勢ではなく、ありのままに残していく姿勢が大切である。
 - ・台東区の人あまり行儀が良くないのではないかと思う。また、歓楽街のイメージも強いのではないか。こうしたことから、一般に外部の人から見てあまりイメージが良くないのではないか。イメージを良くする努力が必要である。
- その他（多様性、二面性）
- ・日本でも最高の公園や文化施設がある一方で、ホームレス問題、不法滞在外国人問題など、課題もたくさんある。こうした二面性も台東区らしさである。
 - ・パチンコ産業の本社が軒並み立地していたり、根岸に妾宅が多くあったりするのはだれでも分け隔てなく受け入れる受容性の高さの現れ。こうした点は台東区の良さである。
 - ・地域によって全く違う顔を持っている。この多様性が台東区らしさである。

< その他 >

- ・次回は11月2日19時から開催することとする。

（以上）